

保護者各位

萌丘東幼稚園 萌丘東保育園
園長 佐々木文彦

絵本について

当園にとって絵本や図鑑などは特別な教具であり、なくてはならないものです。絵本の読み聞かせによる情操教育のみならず、卒園記念制作の絵本づくりにつなげる意味もあり、質の良い絵本に沢山出会えるように心がけています。月間絵本をスタートするにあたって、東園の絵本に対する考え方や取り組みをお伝えします。また、冊子「絵本の与えかた」も合わせてお贈りしますので、ぜひご覧いただきたいと思います。

こども達にとって絵本とは

絵本の読み聞かせをしなくても、大人になれますし、社会人として立派に務め、地域に貢献する人になることはできます。では、絵本はなくてもいいものなのでしょうか。

私はそうは思っておりません。

私自身、絵本を読んだ記憶、読んでもらった記憶を断片的ではありますが、今でも覚えています。それは大切にしてもらった愛された記憶であり、今こうして皆さんに社会人として勤め上げられているのは、そうした記憶があることも大きな力になっていると感じています。そのため、私自身の体験からも、東園のこども達にも、是非そういった記憶を持った大人になって欲しいという純粋な願いが絵本にはあります。勿論、様々な調査から乳幼児期における絵本の有益性は肯定されていますので、絵本はあったほうが良いものであるといえますが、それがなかったとしても東園としては絵本を大切にしていきたい。そんな気持ちにさせてくれるものが絵本にはあります。

但し、先に述べた通り、やらなくても大人にはなれますし、それぞれのご家族で考えかたもそれぞれでしょうから、強制することではなく、共鳴して、読み聞かせの時間を少しでもつくり出していただけるご家族が増えることを願っています。

絵本にとって大切なこと

- 絵本とは、大人がこどもに繰り返し読んであげるもの。
 - 絵本とは、教えるものでなく、純粋な楽しみ。
 - 絵本とは、その時間が心地よいから楽しいと感じるもの。
- ※ それぞれの理由は「絵本の与えかた」に分かりやすく書いてあるので、是非読んでみてください。

絵本の活用

日々の保育で

絵本は活動の導入や帰りの会など、様々な保育場面で活用しています。適した絵本を読んだから活動に入るのとそうでない場合にはこども達の興味に明確な差があり、その後の活動の広がりや違いが生まれます。また、各クラスにある絵本コーナーで日常的に絵本と触れ合い、保育者もこどもからのリクエストにできる限り答えるようにしています。絵本は保育者が厳選しており、その時のこどもの興味や遊びの展開を見越して入れ替えています。そのため、定期的に見ておくと、こども達が今どんなことに興味を示しているのか、今後どんなことをしていくのか、なんとなく伝わるものがあると思います。

ご家庭で

園からご家庭への絵本としては、月間絵本の購入と図書の貸し出し（コロナのため現在休止中）があります。月間絵本は各年齢に合わせて選定した絵本で、月1冊の定期購読と言うイメージしやすいかと思います。図書の貸し出しは3~5歳児が、お気に入りの絵本を持ち帰り、ご家庭で読み聞かせに使ってもらっています。絵本の読み聞かせは親子になる近道と言われるものです。言葉の習得に限らず、こどもの情緒的安定からくる主体的な生活に影響しますので、1日5~10分、絵本の読み聞かせは生活習慣に組み込んであげてください。